

令和元年度
授業改善推進プラン

令和元年 8 月
大田区立羽田中学校

目 次

令和元年度 大田区立羽田中学校 授業改善推進プラン全体計画	1
各教科の授業改善推進プラン	
国語科	2, 3
社会科	4, 5, 6
数学科	7, 8
理科	9, 10
英語科	11, 12
音楽科	13, 14
美術科	15, 16
保健体育科	17, 18
技術・家庭科	19, 20

【関係法令等】
 ○日本国憲法 ○教育基本法
 ○学校教育法 ○学習指導要領
 ○東京都教育委員会教育目標
 ○大田区教育委員会教育目標

【学校の教育目標】
 人間尊重の精神を基調として、広い視野を持って未来を生き抜く、心身共にたくましい生徒を育てるために、次の目標を掲げ、全教職員で教育実践に取り組む。
 ○「豊かな心」 ○「学ぶ力」 ○「健やかな体」

【願い】
 ○学校、地域の実態
 ○地域の期待や願い
 ○保護者の期待や願い
 ○期待される生徒像

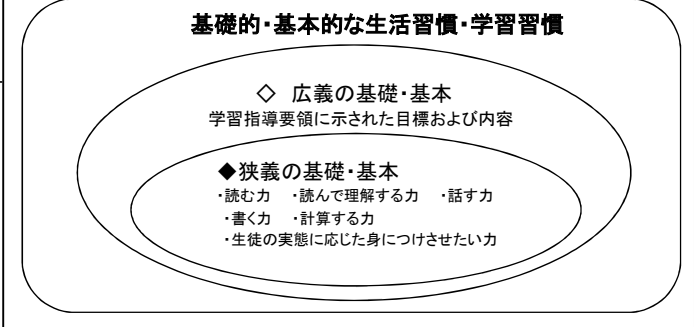
学校経営方針 笑顔と信頼のあふれる学校を目指して
 『豊かな心と主体性を育む教育』を推進する。
 『学力向上・体力向上のための取り組み』を推進する。
 『地域と共に子どもを育てる教育』を推進する。
 『規律ある学校生活』を送らせる。
 『信頼される学校』であり続ける。

各教科の指導の重点
 ○「区学習効果測定」、「都学習状況調査」「保護者・生徒による授業評価」等の結果分析、基礎・基本の定着と思考力を高めるための「授業改善推進プラン」の作成による授業改善への取り組みの充実
 ○生徒の学習状況の把握と個に応じた指導の充実のために「学習カルテ」の作成と個別面談の実施
 ○ICT教材の活用
 ○土曜補習(年6回)、放課後学習教室、夏季休業中の学習教室の実施

【本校における確かな学力の捉え方】
 本校では生徒の人間としての調和のとれた成長を目指し、次に掲げる力を育成する。
 ①基本的な生活習慣と学習習慣
 ・規則正しい生活をしていこうとする意欲 ・家庭学習を継続する力
 ②授業規律と学習環境を整える力(姿勢・態度・服装・授業前の準備)
 ・学習用具を揃える力 ・話を聞く力 ・ノートをとる力
 ③基礎・基本的な学力
 ・読む力 ・読んで理解する力 ・話す力 ・書く力 ・計算する力
 ④知識及び技能を活用する力
 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・発表力
 ⑤主体的・創造的に学び続ける意欲や態度
 ⑥情報の収集力・活用能力
 ⑦自ら課題を設定し探究する力、課題解決能力、コミュニケーション能力
 ⑧マナーや規範意識
 ⑨個性・適性を生かし社会に貢献していく力、自己実現を図ろうとする力

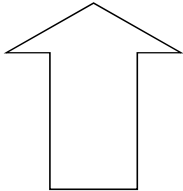
道徳教育の指導の重点
 ○「深く考え、議論する」道徳へ向けた指導法の研修を推進し、意図的・計画的な道徳授業の実施を図る。
 ○小中連携「規範意識向上プログラム」を計画的に実践し、何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力(自己指導力)を養う。
 ○道徳授業地区公開講座を充実させ、家庭や地域社会と連携した心の教育を推進する。
 ○自他の命を大切にすることを養い、命の尊さを知る教育に取り組む。(3月生命尊重週間)

総合的な学習の指導の重点
 ○生徒自らが課題を設定し探求する学習の3年間を見通した計画的な実施
 ○環境問題や地域の課題、職業や自らの将来などへの課題意識をもたせる指導と、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成
 ○図書室やタブレットの有効活用、地域の図書館や関係諸機関との連携など、様々な学習環境の積極的な活用



特別活動の指導の重点
 ○「時と場と立場をわきまえた行動」の確立と主体的な活動を通じた自己伸展
 ○生徒会活動・学級活動の充実による自主的・自治的な態度の育成(ノーチャームデイの実施)
 ○部活動への積極的な取組による豊かな感性の涵養と体力の向上、生徒相互・生徒と教師の信頼関係の深化
 ○特別支援学級との交流活動の充実

進路指導・キャリア教育の指導の重点
 ○「人としてのあり方、生き方」を考えさせる指導
 ○3年間を見通した進路指導計画に基づく系統的・計画的な指導の継続
 ○3日間の職場体験学習等を通して、社会に貢献する態度の育成と自己実現を図ろうとする力の涵養



生活指導の重点
 ○規範意識の向上と望ましい生活習慣の確立
 ○学校生活調査とHyper-QUの実施、スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実
 ○セーフティ教室(SNS、薬物乱用防止)の実施
 ○地域や家庭、関係諸機関との連携による健全育成、安全指導の徹底

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	研究・研修への取り組み	評価の工夫	小学校および家庭や地域社会との連携の工夫
新学習指導要領の趣旨を踏まえて ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力、及び人間性の育成 ○学校評価の改善・工夫とそれを生かした授業評価の実施 ○「朝読書」「新聞教育」を活用した読解力・表現力の育成 ○道徳の授業の充実	○数学(全学年)で少人数学習熟度別授業を実施 ○英語(全学年)でティームティーチングによる指導を実施 ○総合的な学習の時間における職場体験・上級学校訪問などの体験的な活動の充実 ○個に応じた指導の充実のため「学習カルテ」の作成とカルテに基づく個別の面談の実施	○生徒の学習意欲を引き出す指導方法の工夫と学力向上のための取り組みの充実 ○職層に応じた研修等(2、3年次、主幹・主任教諭、研究員等)や校外の研修への積極的な参加と研修成果の還元 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育に対する支援体制の確立とケース会議の充実	○より精度の高い評価基準を目指した適切な評価計画に基づく評価の実施 ○指導と評価の一体化(生徒の学習意欲を喚起し、生徒・保護者への評価に対する説明責任を十分に果たす) ○各教科の学習状況の保護者への周知と家庭における学習習慣の定着を目指した取り組みの推進	○連携小学校との共通指導目標(「学習指導・指導スタンダード」)の活用 ○小学校児童を対象とした中学校見学・部活動体験入部の実施 ○ボランティア活動への積極的な参加の促進と地域との連携の充実 ○「アンスト羽中(学校地域支援本部)」との連携 ○学校と家庭の連携推進事業の活用による問題行動への対応

令和元年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各学年とも国語科全体の達成率が、目標値に3ポイント以内に迫る数値となっている。基礎学力の定着に重点をおいた指導が奏功していると考えられる。
- ・短期的な目標としての意欲喚起と基礎学力の定着を期して、単元テスト・小テスト等を定期的に行うことが出来た。

(2) 課題

- ・すべての基本となる考える力、それを支える語彙力に課題がある。日常の言語活動を意識的に捉える習慣をつけながら、語彙の獲得、理解や思考の深まりにつなげる指導を行う。
- ・授業での学習同様に、基礎学力の定着には家庭学習が重要であることを伝えながら、意欲的に課題に取り組めるように指導する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第1学年	全体としては目標値を3ポイント弱下回った。「言語についての知識・理解・技能」の観点では目標値を上回ったが、そのほかの観点には課題が残った。	/	/
第2学年	全体としては目標値を約2ポイント下回った。「関心・意欲」「話す・聞く」の観点では目標値以上の結果だが、作文や漢字、文章の読み取りなどの問題に課題が残った。	全体としては目標値を少し下回った。「話す・聞く能力」に関する問題に課題が残った。	/
第3学年	全体としては目標値を約1ポイント下回った。「関心・意欲」「話す・聞く」「書く」の観点では目標値を上回っているが、漢字や文章の読み取りなどの問題に課題が残った。	全体としては目標値をやや下回ったが、「関心・意欲」「話す・聞く」「書く」の観点では目標値を上回っている。漢字などの問題に課題が残った。	全体としては目標値を下回った。特に話すこと・聞くことについての問題に課題が残った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値を11ポイント下回っていた。これは関心意欲を測る問題であった、聞き取り問題や作文でのつまずきのためだと考えられる。	目標値を10.5ポイント下回った。話の内容を正確に聞き取る問題の正答率が低い。	目標値を8.5ポイント下回った。どの問題についても、書くことに対する苦手意識があるようである。	目標値を1.5ポイント下回った。説明文に対して、文章の構成や展開を正確にとらえることに課題がある。	目標値を2.6ポイント上回った。比較的漢字の読み問題がよくできた。

② 第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値に達している。これは関心意欲を測る問題の一つである、聞き取り問題での頑張りの影響のためと考えられる。	目標値を2ポイント上回った。どの問題も概ねできている。	目標値を2.5ポイント下回る。文章を正確に捉え、伝えたい事柄を明確にして書く問題の正答率の低さが影響したと考える。	目標値を約1ポイント下回った。概ねどの問題もできていたが、説明文を文章の展開に即して内容を捉える点が苦手である。	目標値を5ポイント弱下回った。漢字の書きとりについて課題がある。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値を3.5ポイント上回った。この観点を測る問題の、聞き取りと作文での頑張りが影響したと考える。	目標値を5ポイント強上回った。どの問題も概ねできている。	どの問題も概ね目標の水準には達しているが、指定された文字数と段落数で書く問題に課題が残った。	目標値を4ポイント下回った。どちらかといえば説明的文章に対して課題があるようである。	目標値を約2ポイント下回った。漢字の読みに力を入れる必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
授業に向かう姿勢をさらに向上させ、学習効果測定でも成果が出るように、聞き取り問題や作文での躓きを改善していく。	定期的に授業内で聞き取り問題を実施し、聞き方話し方のポイントを体験的に身につけていくようにする。	書くことに対する苦手意識をなくすために、スモールステップで書くポイントを理解していけるようにする。	文章の内容に沿ったまとめが書けるようにするためにも、文章の展開や構成に気をつけながら読む能力を育成する。	目標値を上回ったが、引き続き小テストの実施などで定着を図っていく。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。	引き続き力を伸ばせるよう、授業内で聞き取り問題を実施したり、発表する場を設けたりする。	文章の内容に沿うものを書く力を育むため、書く前段階での文章の正確な読み取りの作業に力を入れる。	説明文を文章の展開に即して内容を捉える力の向上のため、構成や展開を読み取る問題を多く取り入れる。	漢字の書きとりに関しては、引き続き小テストの実施などで定着を図っていく。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。	引き続き力を伸ばせるよう、聞き取り問題はもちろんのこと、集団討論等を授業に導入し、主体的に話す力を伸ばす。	文字数と段落数を指定して書く課題を取り入れ、条件を踏まえて書く力が身に付くようにする。	説明的文章に慣れ、文章の展開に即して要旨を捉える力をつけるために、段落や全体の要旨をとらえる課題を取り入れる。	引き続き小テストの実施などで漢字の定着を図っていく。

令和元年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 資料提示や読み取り作業を授業で多く取り組んだ結果、地図の活用など単純な資料の読み取りに関しては一定の成果が出ているように見られる。

(2) 課題

- どの学年も正答率が目標値から下回っている傾向にあり、2, 3 学年では複数の資料から読み取った情報を活用する問題の正答率が低く、課題が見られた。授業において複数の資料を同時に活用する演習などを継続的に行っていく必要がある。
- どの学年も知識・理解を問う問題での正答率が目標値に達していないことが多く、ワークなどの学習を踏まえて基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果
第 1 学年	全体では目標値から下回る結果であった。特に知識・理解を問う問題において正答率が低い傾向が見られた。	/	/
第 2 学年	全体では目標値から 6 ポイント以上下回る結果となった。特に地理的分野の「世界の諸地域」と歴史的分野の「飛鳥～平安時代」の知識・理解の問題全てで目標値を大きく下回る傾向が見られた。	全体では目標値から下回る結果であった。特に知識・理解を問う問題において正答率が低い傾向が見られた。	/
第 3 学年	全体では目標値から下回っており、昨年度と比較しても正答率が若干下がるという結果となった。	全体では目標値から 10 ポイント以上下回る結果となった。特に歴史的分野の飛鳥～平安時代の知識・理解の問題全てで目標値を大きく下回る傾向が見られた。	全体では目標値から下回る結果であった。特に知識・理解を問う問題と思考力・判断力・表現力を問う問題で正答率が伸びない傾向がみられた。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地理・歴史・公民の全分野では目標値に達する問題もあるが、公民分野では20ポイントも下回る結果となっている。	概ねどの問題も目標値に近い正答率であったが、参勤交代の資料を読み解く問題では、目標値を下回る結果となった。	資料を読み取る問題に関しては、目標値を上回る正答率の問題も多くあるが、複数の資料を活用する問題などでは正答率が上がらない傾向にあった。	問題によっては目標値を下回る結果となってしまったものもあった。特に公民的分野で目標値から正答率が大きく下回る問題があった。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地理的分野の「世界各地の人々の生活と環境」は目標値を上回っているが、記述式になると正答率が下がる。	記述の問題は目標値を上回る結果となっている。複数の資料を活用する問題では正答率が目標値を下回っている。	地図の読み取りについては目標値を上回っているが、主題図や歴史資料などの読み取りの問題では目標値を下回る結果となっている。	全体として目標値を下回る状態であるが、特に地理的分野の「世界の諸地域」と歴史的分野の「古代までの日本」において目標値を20～30ポイント下回る結果となっている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
概ね目標値を上回る傾向にあるが、記述式の問題の正答率が下がる傾向にある。	目標値を上回ることはできておらず、多くは-5ポイント以内という結果であった。	目標値を上回ることができている問題がある一方で、雨温図等の資料活用を問う問題で目標値を下回る結果となった。	歴史的分野の「近世の日本」で10ポイント以上目標値を下回る結果となった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
実物資料や新聞といった教材を活用し、社会的事象への興味・関心を喚起していく。	授業内で「なぜ、このような状況が生じたのか？」という発問を行い、話し合い活動を交えて社会的事象が起こる因果関係を考えさせる。	ICT 機器を活用して雨温図や主題図などの資料の読み取りの基礎を徹底的に行うとともに、授業内で論述演習を行う。	基礎的・基本的な学習事項を授業内においてノートにまとめさせる。单元ごとに学習ワークへの取り組みを徹底させる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
学習内容と関連する内容の新聞や映像などを用い、現代社会の出来事に関心を持たせる。	授業内で「なぜ、このような状況が生じたのか？」という発問を行い、社会的事象が起こる因果関係を考え、論述する活動を行う。	ICT 機器を活用して雨温図や主題図などの資料の読み取りを確実に習得する。また、資料と社会的事象の関連を授業内において論述させる。	单元ごとに学習ワークに取り組みせるとともに、小テストを行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
定期考査で時事問題を出題するだけでなく、普段の授業でも日々新聞の記事を取り扱う。新聞の読み方やニュースの解説を行い、社会に興味を持たせる。	自分で考える時間、友人との話し合いを通して、自分の考えをまとめさせる。また、自分が考えたことを自分の言葉で表現できるように指導していく。	授業内で資料から情報を読み取り、その情報を整理し、活用できるように指導する。取り扱ったことのない資料に対し、あきらめず取り組む姿勢を育む。	プリント学習を中心に授業の内容を整理し、理解させる。知識の定着を図るために、单元ごとに学習シートを配布し、家庭学習を習慣づけていく。

令和元年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎・基本の定着を目標にして授業を行い、演習を繰り返し行っている。一定の成果が得られたものとする。
- ・単元テストや小テストを小まめに行い、また日頃より課題を出すことで、生徒が常に学習する習慣を身に付けさせることができた。
- ・数学的活動を授業内でを行い、生徒が物事を数学的な問題として捉えるようになった。

(2) 課題

- ・基礎的事項の繰り返し演習を行っているが、生徒により理解度に差が見られる。少人数授業の特性を生かし、一人一人にきめ細かい指導の徹底が必要である。
- ・分野が異なる学習をすると、既習事項が抜けてしまう傾向が顕著に見られる。例えば図形領域の学習では、方程式や関数の考え方を必要とする問題等を扱い、理解の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果
第1学年	全体として、正答率が前年度を上回り、大田区の目標値に近づいている。棒グラフの読み取りなどの数量関係の内容では昨年度を大きく下回っていた。	/	/
第2学年	全体の正答率は、昨年度と比べ横ばいである。グラフや図形の知識に関する問題の正答率は上がったが、負の数の扱いや代表値の知識の定着に課題が見られる。	全体として、目標値に対して正答率が前年度を下回っているが、棒グラフの読み取りなどの数量関係の内容で、達成率が上がった。	/
第3学年	全体として、昨年度より正答率は3ポイントほど上昇した。しかし、関数・確率領域では正答率が昨年度より下降した。	全体として、正答率が目標値を下回っている。前年度と比べると、数と式や図形、関数の領域では正答率が目標値に近かった。	全体として正答率が目標値を下回っている。前年度と比べると、数と計算や量と測定の領域では正答率が目標値に近かった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習内容を用いて、課題解決を図る姿勢が見られる。積極的に発言する生徒もいて、学習に対して前向きである。	問題文を読み、物事を分析し考察することに、苦手意識を持つ生徒が多い。特に図形の計量、様々なグラフの読み取りでは顕著である。	計算の基本事項は理解している。しかし、式に割合や比を用いた問題や基本図形の計量では、途端に解答できなくなる。	全体として、目標値に近い正答率である。しかし、基本図形の計量に関する問題では、目標値を大きく下回っている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項には意欲的に取り組める。しかし、新たな単元に入ることに躊躇する傾向がある。導入時は、丁寧な指導が必要である。	特定の解法に固執する傾向がある。1つの問題に対し、複数の解法があることを認識させ、生徒が柔軟に考えられるような指導が求められる。	負の数の理解、四則の混じった計算、分数・小数の計算に、課題が見られる。自然数であれば、文字式の計算でも正答率が高い。	全体として目標値に近い正答率であるが、絶対値や有効数字等を考える問題の正答率が、目標値より下回る。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
昨年度に比べ発言が多く、意欲的な姿勢が見られる。難しい問題でも、諦めず熟考する場面が見られる。	問題文を読み、内容を分析し考察することが苦手である。また領域を越えた融合問題となると、正答率が急下降する。	全体として目標値に近い達成率である。しかし、方程式を解いたり、関数のグラフから式を求めることに課題が残る。	全体として目標値に近い達成率である。しかし関数に於いて、グラフの特徴についての理解に課題が残る。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
基本的な計算練習を、毎授業で実施している。基本事項の理解定着を図り、生徒が達成感を得ることから、より意欲的に学習する姿勢を育成する。	問題解決のため、既習事項がどのように利用できるのかを、常に考えさせるような発問を授業に取り入れる。	答えだけではなく、途中式や考え方を、日頃から書かせる指導を行う。繰り返す行うことで、理解の定着を図る。	生徒に発問し答えさせる際、既習内容を用いて発問し、適切な言葉で表現させる。特に重要な事柄に関しては、日常的に確認し、定着を図る。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項が、新たな学習に活用されている。その繋がりを理解させ、生徒の意欲を高めさせたい。	答えよりも、それを導く過程を説明させる。友達同士で議論し、互いに高め合う授業展開を図る。	計算過程を常に振り返り、計算順序を問うことをしていく。計算練習は、継続して行っていく。	考え方を適切な言葉を使い説明させる場を多く設ける。これにより、知識の定着を図る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
問題を解くことに喜びを感じている。誤答も、どこで間違えたのかを考えられるので、その支えを継続していきたい。	問題文の読み取りに重きを置く。問題文から分かることなどを随時発問し、課題を解決する考え方を教示していく。	小テストなどを小まめに行い、既習事項の理解定着を図る。特に、毎授業の計算練習は継続して行っていく。	発問の際、解答を導く過程を説明させる。適切な用語・表現をさせることで、既習事項の内容定着を図る。

令和元年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

長期休暇などを利用して、既習内容を復習する機会を設け知識を定着させたこともあり、習ってから期間の開いた単元でも正答率を下げる事がなかった。

(2) 課題

3学年は「知識・理解」の観点、2学年は「関心・意欲」の観点に課題が残った。一度過ぎた単元にも戻って繰り返し学習することで知識を定着させたい。また、身近な科学と学習内容を結びつけたり、実物や映像を提示したりすることで関心・意欲を高めたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果
第1学年	「自然事象への関心・意欲・態度」が4観点の中で最も低かった。身近な理科から関心を高めたい。	/	/
第2学年	「生命」領域は目標値を超えた。「地球」領域が最も低い結果となった。授業進度の遅れが原因だと考えられる。	「物質・エネルギー」領域が、「生命・地球」領域より達成率が低かった。実験を行うことで知識を定着させたい。	/
第3学年	前年度より「自然事象への知識・理解」の観点を大きく下げる結果となった。理科用語を繰り返し練習させたい。	全観点で達成率を下げる結果となった。「観察・実験の技能」の観点到課題があるので、実験・観察を重視したい。	「知識・理解」に課題が残った。理科用語が身につくよう繰り返し学習することで定着させたい。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
全体的に正答率が低かった。なかでも「呼気と水蒸気」に関する問題の正答率が低かった。	溶解度をグラフから読み取るなど、グラフの読み取りに関する問題の正答率が低かった。	顕微鏡の操作に関する問題の正答率が低かったが、水溶液の扱い方などは正答率が高かった。	大地の単元は比較的正答率も良かったが、動植物の単元は昨年度より大きく正答率を下げた。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
植物に関する問題は目標値より高かった。光や音、密度、岩石の単元は目標値を下回った。	密度や音波、浮力など計算問題や、レンズや鏡など作図が必要な問題の正答率が低かった。	植物や気体の実験に関する問題の正答率が高かった。スケッチの仕方の正答率が低かった。	比較的、目標値と同程度の正答率が見られた。特に深成岩のでき方の正答率が低かった。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
水蒸気や露点に関する問題は正答率が高かったが、呼吸の仕方の問題は低かった。	柔毛のつくりの利点や並列回路などの利点を説明する問題の正答率が低かった。	マグネシウムの酸化における質量の関係をグラフに表す問題の正答率が低かった。	オームの法則や電磁誘導、季節風や前線など電気と天気の単元の正答率が低かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
手にとって観察してみたり、観察出来ない部分は映像で確かめたりして、関心を高める。	例えば状態変化の実験で加熱時間と温度の関係をグラフに表すなどグラフを活用する。	顕微鏡やガスパーナーなど、再度使用方法を説明し、手を動かして身につけさせる。	植物の単元を特に重視し、問題練習や単元テストなどを行い、知識を定着させる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
雲の出来方や陰極線など、演習実験を多く取り入れ、実際に見ることで関心を高める。	オームの法則や湿度の計算など計算問題は繰り返し解き、磁力線など作図にも力を入れる。	細胞の観察など観察の場面では、スケッチを取り入れ、スケッチの方法など確認していく。	練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて繰り返し学習することで、知識を定着させる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
知識が身近な物にどのように応用されているのかを知ることで、関心や興味を高める。	遺伝の仕組みや各発電方法の長所など様々な事象を理論的に説明できるように指導する。	運動の実験などで、実験結果をグラフにまとめ、性質を考察することで技能の力を伸ばす。	練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて繰り返し学習することで、知識を定着させる。

令和元年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・興味・関心を高め、教科書の内容理解を促すためにICT機器を効果的に利用した。
- ・ペアワークやグループワーク、ALTとのやりとりを積極的に取り入れ、インプットやアウトプットの機会を多く設けた。
- ・小テスト、単元テストを繰り返し行うことで、知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた。

(2) 課題

- ・単元で新しく学んだことを一時的に理解はできるが、定着に繋がらない生徒が多い。既習事項に繰り返し触れさせる必要がある。
- ・学習した表現を活用して英作文を行うことへの苦手意識が高い。授業で書く時間を十分に確保し、短い英文を書く練習を繰り返す必要がある。

大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	「聞くこと」「読むこと」に関しては、概ね目標値に近い達成率である。「書くこと」に関しては無回答の割合が区平均と比較して高いことが課題である。	/	/
第3学年	「聞くこと」は、目標値を上回った問題も多く見られる。「読むこと」は語形・語法の理解力を高める必要があり、それを書く力の向上にも発展させていく。	領域においては、「書くこと」特に、記述の正答率が低かったため、語彙や英文の構造に重点を置いて指導する必要がある。 (第2学年時)	/

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
音読を中心とした発話には積極的な生徒が多い。一方で書き取りへの意欲には課題がある。 (1学期の様子から)	学んだ表現を、組み合わせ、自分のことに置き換えて表現する力の育成が必要である。 (1学期の様子から)	小学校での外国語活動を通して、聞くことに関する基礎的な力は身につけている。 (1学期の様子から)	文字と発音のつながりや、文法的な力を徐々に理解させ、英語の文構造になれる必要がある。 (1学期の様子から)

② 第2学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
英語への関心・意欲・態度を高めることで英語の基礎的な力の育成につなげる必要がある。	「書くこと」への苦手意識が高い生徒が多く、まずは「書くこと」への抵抗感を減らしていくことが課題である。	基礎的な力が備わっている生徒が多い。一方目標値に届かない生徒は語彙力不足が考えられる。	本観点に関しては、二分化してしまっていることが課題である。繰り返しの学習で基礎力を高め、「書くこと」につなげたい。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
「話すこと」や「聞くこと」に関心・意欲が高い。「書くこと」の関心を高め、継続させるために、取り組みを工夫する必要がある。	「書くこと」において既習の単語や熟語、文法知識等を活用し、自分の言葉で表現させるため、語彙力を高める必要がある。	「読むこと」について限られた時間内で情報の読み取りができる力を総合的に育成する必要がある。	1、2年の復習を始め、単語や熟語、文法上のきまりを理解し応用させるため、繰り返しの学習が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
英語での簡単なやりとりやビンゴ、歌などを通して、英語への関心・意欲を高める。また発話を重視し、ペアワークを取り入れていく。	A L Tとのインタビューテストや、自分自身のことを英作文させる機会を設け、学習事項を活用して表現する力を身につけていく。	イラストやジェスチャーを用いることで、日本語の助けを最小限にする。また、初見の短文などにも触れさせ、読む力の向上につなげていく。	学んだ単語や文法事項に繰り返し触れさせることで、知識の定着を図る。音とつづりの一致を目的に音読を重視して取り入れる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
前年度のフォニックスビンゴから復習単語を使つてのビンゴに移行し、教科書の内容理解に対する興味・関心を促す。	ペアワーク等の活動を通して音読の充実を図り、質疑応答がスムーズにできるよう指導する。	毎回リスニング演習を行うことで、本文内容を聴覚で認識させた後、英文を読ませて文法事項も定着させる。	単語や文法の短文小テストを継続的に実施する。また、家庭学習においてノートに繰り返し短文を練習させ、さらに定着を図る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
「書くこと」への意欲が高められるように、設問を工夫しながら、小テスト等をスモールステップで継続的に実施する。	語彙力を高めるため、単語練習を繰り返し復習させるとともに、熟語や基本文を段階を経て英語で表現できるように指導する。	「聞くこと」や「読むこと」において、概要理解と同様、情報整理の方法や細部の理解まで、回数や時間を限定しながら取り組む。	既習の文法事項をまず定着させ、さらに演習問題等を繰り返し行い、複数の文法事項の組み合わせに対応する力の育成を図る。

令和元年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・合唱練習では、歌詞を拡大コピーして使用し、合唱練習に役立てた。また、練習方法をパート別練習などで工夫して、まとめとなる3学期にその成果を発表することができた。

(2) 課題

- ・授業規律を確立し、落ち着いた授業環境を整える。
- ・歌唱において、声を出すことに抵抗を感じている生徒、地声や男声の異常低音等の課題を克服し、自然な響きのある歌声を身につけさせる。
- ・箏の授業では、一人一面お手配し、実りある体験活動にする。

2 観点別の課題

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
聴く(聞く)、書く、読む、歌う、弾くという流れにのれない生徒がいる。 基礎・基本の定着に欠ける。	創意工夫のために必要な知識・理解が乏しい。	歌唱表現に必要な姿勢、発声等の基本となる力が身につけていない。器楽で基本運指が理解できていない生徒がいる。	鑑賞曲から何を学び、何を感じ取るのか。注目する点を理解するまでに時間がかかる。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
基礎・基本の定着に欠ける。集中して授業に取り込む姿勢が身につけていない。	創意工夫のために必要な知識・理解が乏しい。	歌唱表現に必要な姿勢、発声等の基本となる力が身につけていない。器楽で基本運指が理解できていない生徒がいる。	鑑賞曲から何を学び、何を感じ取るのか。注目する点を理解するまでに時間がかかる。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
基礎・基本の定着に欠ける。授業に落ち着いて取り組めない生徒がいる。	創意工夫のために必要な知識・理解が乏しい。	歌唱表現に必要な姿勢、発声等の基本となる力が身につけていない。	鑑賞曲から何を学び、何を感じ取るのか。注目する点を理解するまでに時間がかかる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
集中して授業に取り組む姿勢が必要である。歌唱、器楽、鑑賞、提出物に至るまで、ひとつひとつ確認しながら進めていく。	実技表現への苦手意識をもつ生徒たちへの自尊意識を高める指導をする。歌唱の内容を感じ取り、表現を工夫して歌う。	興味深く体験できる基礎発声や基本運指を毎授業で繰り返し練習し、基礎・基本の習得を図る。	音楽への興味、関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
集中して授業に取り組む姿勢が必要である。分かりやすい説明、ワークシートや視聴覚機器の活用により関心を高める。	多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。	器楽の活動を通して、楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身につけて演奏する。	鑑賞教材は我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国および諸外国の様々な音楽のうち、指導に適切なものを扱う。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
興味深く体験できる基礎発声や音楽の基本を毎時間繰り返し、基礎・基本の習得を図る。	歌唱の活動を通して、歌詞の内容を感じ取り、表現を工夫して歌う。	多様な音楽の良さや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	音楽を形作っている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で表現するなどして、音楽の良さや美しさを味わわせる。

令和元年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な技能の反復練習により、各自の進歩がわかり、学習したことを生かしなが課題に取り組む場面が増えている。
- ・毎時間の目標を書くことで、自分の課題に集中し、計画的に取り組む生徒が増えた。
- ・教室内外の掲示物の工夫や、関連図書を置くことで、美術に触れる機会が増えている。

(2) 課題

- ・基礎的な技能の練習により、創造的な技能を習得するとともに、イメージトレーニングやアイデアスケッチなどで、「考えを広げ、深め、決める」場面を増やし、自分らしい表現の完成まで探求し続ける創造性を育てる。
- ・生徒に合う教材の研究や提示方法の工夫を引き続き行い、発想や構想に興味を持続させ、主体性を高め、探究心や達成感を持たせる。
- ・教室環境を整え、掲示物や情報機器の効果的な活用により、表現の幅を広げたり、自分らしい表現を深めたりするきっかけを増やす。

2 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
意欲的に課題に取り組む生徒が多いが、理解力が足りず、個別指導の必要な生徒もいる。	知識や経験の不足から、自由に発想することが苦手と感じたり、早く答えを求めたりする傾向がある	自分の考えを表現するための基本的な道具の扱いや段階的な技能の習得が必要である。	芸術作品に触れる機会が少なく、自他の作品の良さを見つけさらに発展させ深める力が乏しい。

② 第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
課題に集中できる生徒が多いが、最後まで制作意欲が続かず妥協してしまうものも見受けられる。	発想することに苦手意識があり、自信が持てず、自由に表現できないものが若干ある。	自分の考えを自由に表現するために、正しい道具の使い方や技能の習得が必要である。	芸術作品に触れる経験が少なく、それらから受けたものを言葉で表現し、作品に生かす力が乏しい。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
主体的に取り組む、自分ならではの感覚に自信を持つものもいるが、妥協してしまうものもいる。	自由に発想することができるが、さらに考えを発展させたり深めたりする力が不足している。	イメージを形にできる生徒が大多数であるが、技能不足のため考えが停滞したり雑になったりする。	生活の中で諸外国の文化に触れ、美的感覚の向上を図り、発展的に作品に生かす力が乏しい。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間ごとの目標を明確にし、自分の課題に集中させる。自発的に取り組むための資料や書籍などを整備する。	発想の段階でいくつものアイデアを出させ、より多くの中から自分で決定し自信を持って制作するように促す。	基礎・基本の技能の習得の上に、新たな知識や技術を身につけ、自分の作品の完成度を高めるように促す。	教室内外の掲示物や資料提示を工夫し、生活の中で芸術に触れる機会を増やし、一人一人の美意識を高める。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間ごとの目標を明確にし、自分の課題に集中させる。自己探求しやすい環境作りに配慮する。	自分で考えを深める発想や構想の方法を知り、自分らしい表現をしていくヒントを用意する。	できるだけ個々の技能の習得に対応し、制作に生かせるように助言する。	美術館レポートの作成など、生活の中で芸術に触れる機会を増やし、一人一人の美意識を高める。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間ごとの目標を明確にし、自分の課題に集中させる。3年間のまとめとして高い意識をもって取り組むようにする。	既成のイメージを超えるような参考作品を見せるなど、発想について深く考えさせる場面をつくるようにする。	繰り返して基礎的な技能を定着させる。自分らしい表現を工夫する能力を高める。	修学旅行で歴史的文化財に触れたり、外国の文化や現代美術を紹介したりして、豊かな美的感覚が身につくようにする。

令和元年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・補強運動として持久走を継続的に取り入れ、持久力を高めることができた。
- ・オリンピック・パラリンピック教育推進校として、さまざまな種目の選手から講話を聴く機会をつくり、生徒の興味・関心を高めることができた。
- ・授業の流れを明確にすることにより、3年生は、リーダーを中心に自主的な活動を行うことができた。

(2) 課題

- ・総合的な体力の向上。体幹を鍛えたり、多様な動きのトレーニングをさせたりして、身のこなしやバランス力などを養わせる。
- ・挑戦しようとする態度を育てる。前向きな言葉かけで積極的に運動に取り組ませ、自己肯定感を高めさせる。
- ・集中する力や継続する力をつける。

2 大田区学習効果測定の結果分析

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》苦手意識が強く、出来ないことへチャレンジする気持ちが薄い。 《女子》 苦手なことに消極的で、自主的な活動が苦手な生徒が多い。	《男子》自己課題を把握して克服しようとする意識が低い。 《女子》 自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力が不足している生徒が多い。 《女子》 基礎体力が不足している生徒が多い。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。 《女子》 授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》 苦手意識が強く、出来ないことへチャレンジする気持ちが薄い。 《女子》 全体指導で指示が聞けない生徒が多い。	《男子》自己課題を把握して克服しようとする意識が低い。 《女子》 自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力が不足している生徒が多い。 《女子》 基礎体力が不足している生徒が多い。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。 《女子》 授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》積極的に取り組むが、集中が続かない。 《女子》とても積極的に取り組むので、自主的な活動の質を高めたい。	《男子》課題に合った練習方法を選択することが苦手である。 《女子》 自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力は確立しているが、その力を活用できない。 《女子》 基礎的な技能は高いが、ゲームなどの実践に生かせない。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手な生徒が多い。 《女子》 授業での知識を定着させることが苦手な生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、出来ることから取り組ませる。 《女子》場面練習を多く取り入れたり、内容をはっきりと理解させたりして取り組ませる。	《男子》スモールステップとフィードバックを繰り返し行う。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、出来ることから取り組ませる。 《女子》ホワイトボードを活用し、指示を明確にし、ノートに書かせる。	《男子》スモールステップとフィードバックを繰り返し行う。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、積極的に取り組ませる。 《女子》グループ活動を増やし、各グループの課題に応じた練習を構成させるなど、自主的に活動できる場を多く与える。	《男子》自己課題を細かく把握させ、練習方法を選択させる。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》基礎練習を繰り返し行う。具体的な場面を伝え、ゲーム中に止めてその場で指導する。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

令和元年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 普通教室に導入されたプロジェクターや電子黒板などのICT機器を活用して、文字・音声情報だけでなく、視覚的にわかるような授業を展開することができた。
- ・ 取り扱う教材をより身近なものにすることにより、生徒が日常生活と関連付け、学びやすい教材にすることができた。

(2) 課題

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業展開を工夫したが、週に0.5～1時間という限られた時間で「対話的な」学習活動は時間的な課題を感じた。限られた時間で、必修単元をやっていくには他教科との関連を深め、教科の壁を越えた横断的なカリキュラムを学校全体で組織的に取り組む必要がある。
- ・ ICT機器を活用するのは有効だが、ICT機器だけでなく、黒板や教科書などの特徴を活かして活用していきたい。
- ・ 「教材で育成を目指す資質・能力」を身に付けさせるためには、①「教材」②「教授法」③「学習者」を考えなければならない。それぞれの方法や実態を分析し、工夫した授業をしていく。
- ・ 授業で行った基本的な知識が定着していないことが少なくない。

2 観点別の課題

① 第1学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
説明と作業の切り替えができています。しかし、作業によっては意欲に差が出ている。	定期テストでは問題を正確にとらえていない解答が多かった。	作業の説明は写真や映像を使ったが、写真を見ずに質問することが多く、うまく伝えられなかった。	期末考査では問題文の理解が十分でなく、正しい解答ができない生徒がいた。

② 第2学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
一部の生徒で授業への集中に課題の残る生徒がいた。	定期テストではほとんどの生徒が正解することができた。問題の難易度が適切だったのか疑問に残る。	作業の説明はしっかりと聞いている。全体的な取り組みも良い。	言葉の意味がまだ十分に定着していない。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
全体を通して、発言や取り組みなどは良かったが、一部の生徒を集中させることができなかった。	定期テストではほとんどの生徒が正解することができた。問題の難易度が適切だったのか疑問に残る。	授業中の説明はしっかりと聞き、作業に取り組んでいる。しかし、一部の生徒を集中させることができなかった。	定期考査では用語の問題、特に拡張子を説明する問題の正答率が低く、知識の定着に課題が残った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
作業の重要性をわかりやすく伝え、学ぶ意味を深く理解させる必要がある。	生活に関連のある課題を出題する。生活に対する課題意識を伸ばしたい。	わかりやすい場面を考えさせ、資料を配布しても、注目することが少なく、分からなくても、自分で解決できることに気づかせる。	定期考査では、分かりやすい文章を心がけ作成したが、授業中にも文章から解く課題を出題する必要がある。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
全ての生徒の意欲を引き出せるような、課題設定、発問などを考え実践していきたい。	問題の難易度や生徒の様子などをしっかりと把握したうえで問題の作成をしていく。	説明をしっかりと聞いていても、できない生徒がいる。失敗例を説明しながら、取り組ませたい。	授業中の言葉を生徒自身で説明をさせることで再言語化し、知識の定着を図る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
全ての生徒の意欲を引き出せるような、課題設定、発問などを考え実践していきたい。	問題の難易度や生徒の様子などをしっかりと把握したうえで問題の作成をしていく。	全ての生徒が集中して取り組めるように、教材や発問を工夫して実践する。	授業中の言葉を生徒自身で説明をさせることで再言語化し、知識の定着を図る。